

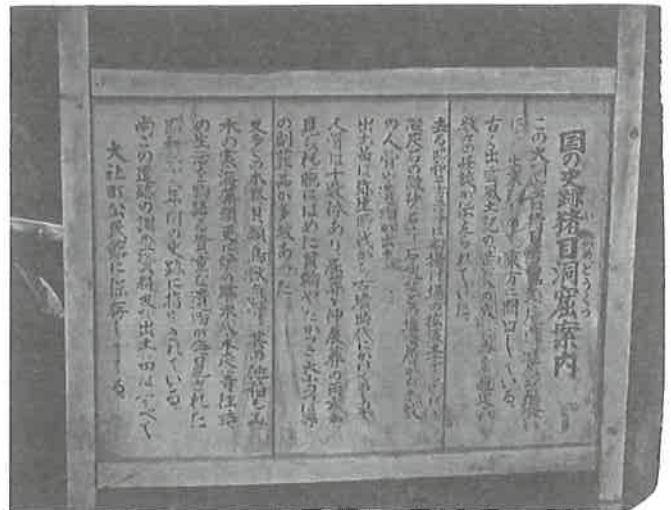
カナリヤの詩

CANTUS CANARIARUM

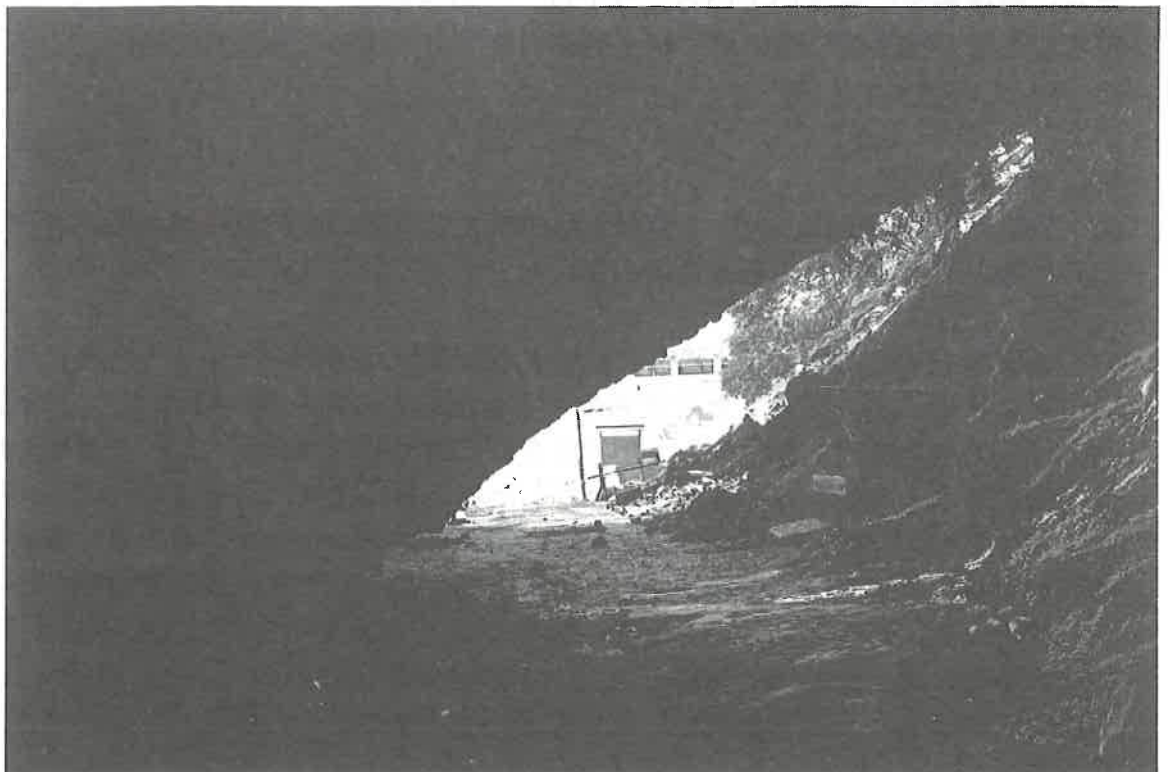
第 157 号

2008 年 8 月 2 日

- 1P 写真「黄泉の穴」
 2P～「科学で解くバガビッド・
 ギータ」を読んで＝ネサマナ
 8P 写真「海」
 9P～宮城刑務所便り＝ネサマナ
 12P 「フリー-X-ソン」窓ロ



出雲「黄泉の穴」



『科学で解くバガヴァッド・ギーター』 を読んで

元サマナ 男性

『科学で解くバガヴァッド・ギーター』

スワミ・ヴィラジェシュワラ大師著 岡太直訳 木村慧心監修

たま出版 原書出版年 1977 翻訳本出版年 1988

という本を最近読みました。この本の中で気になった部分があったので引用します。

元信者とくに出家していた人は、ハッとさせられるのではないのでしょうか。まるでオウムの問題点を指摘しているかのようです。たとえば、自分は聖者であるとうぬぼれてはいけない、超能力を売りにするヨーガ行者は偽物だ、ヨーガ行者は毎日お風呂に入って清潔にしなければいけない、衣服も洗濯し、住居もきれいに掃除をなさいと書いてあります。だいたい体から異臭を放ち、まわりに不快感を与えているようではしょうがないのではないのでしょうか。さらに、アーレフの施設のように不衛生な環境で、多くの人が結核にかかり、外に出て、周りの人たちに結核菌をばらまいているようでは、救済活動などと言えるのでしょうか。引用した箇所はかなり長いですが、興味のある方は読んでみてください。

第二章 p 81

60 実にアルジュナよ。人の心をかき乱す諸々の感覚器官の働きは、信仰修行に熱心に努力する洞察力ある人物の心さえも力づくでひきずり去って行くのだ。

心の修行をする者は、感覚器官に関連する欲望をコントロールするために厳しい苦行を行じるが、そうした者たちですら習慣の力に打ち負かされるのである。例えば、沈黙と禁欲の誓いをたてた者は食欲に対する弱点を現わし、また他の者は極端に怒りっぽくなるのである。そうした者たちは苦行によって時には一時的に、一つまたは他のいくつかの感覚器官の働きをコントロールすることに成功し、他人を左右する意志の力を獲得することもある。こうしたヨーガ行者は明らかにすべての行為に打ち克ち、幸運がその者に恵みを与えているかのように見える。ヨーガ行者は超自然的力を獲得したことを誇り得意になるのである。こうして、感覚器官に関連する欲望が精神的誇りに変わり、神に近い人物として崇拝される

ことや富や名声や安樂を得ることを要求するようになる。その結果そのヨーガ行者は、それらの事々を要求したために結局は地獄に落ちるのである。解放されて自由になるためにすべてのものを放棄した人物が、逆に自分自身が欲望の生け贄になり、かえって以前よりも悲惨な状態になってしまうのである。

第四章 p 134

12 この世の中にあつては、宗教儀礼から生ずる結果を望む者たちは神々を礼拝する。なぜならば、人間の世界にあつてはそのような宗教儀礼を通しての諸行為は、結果を速やかに実現させるからである。

有限なるこの世界においては、カルマ・ヨーガによって行為からの解放を求める者は非常に少ない。更に、行為から自由になることに成功し最高の目標に到達するために行為を捨てようとする者は更に少ない。大多数の人々は無数の欲望によってこの世界に束縛されており、その欲望を満たすために行為するのである。この世の欲望は、それを断念することや黙って静かに座っていることでは満たされずに、直ちに結果を生む行為によって達成されるのである。成功を得るためにある者は神様を礼拝し、また他の者は全精力を行為とその結果とに集中させる。そして両者とも希望通りの結果を得ることができる。

いわゆる超能力とは、水の上を歩いたり空中を飛行したりすることのできる浮揚術や、他人に影響を与えてコントロールする能力のようなもののことだと言われている。事実、超能力を得ようと願って神様に祈ることにより、欲望の対象を完全に支配することができる。しかし、ヨーガ行者は超能力によって感覚器官の対象物を支配できるかもしれないが、欲望から自由になることはできない。欲望だけがヨーガ行者に超能力を獲得させるように駆り立てているのである。そして、こうした欲望が消滅するまでは心の中の調和はないのである。多くの求道者が最高の目標に到達するために信仰修行を始めるが、その途上にあつて彼らは感覚器官の対象物に誘惑され、超能力の獲得へと走り始めるのである。従つて、超能力は価値のないものとして拒絶できる者だけが、最高の境地に達するために前進できるのである。超能力の魅力にとらわれる者はその将来を破滅させることになる。

科学者や発明家は神様に祈らなくとも超能力を得ることができる。そうした人たちの超能力とは自分たちの選んだ研究分野の成果であつて、ヨーガ行者の超能力とは異なるものである。

例えば、1903年までは人間が空中を飛ぶことは不可能であると考えられていた。しかしこの年、米国の発明家で航空の先駆者であるオービル・ライトとウィルバ・ライトの兄弟が動力の付いた最初の飛行機を操縦し、持続して飛行する

ことに成功し航空時代の幕を開けたのである。特にライト兄弟は機械技術に関する卓越した知識を持ち、根気強く空を征服するために熟考を重ね計画を立て実験を行った。彼らは空気力学の知識、機体構造の技術、エンジンの製法、燃料の技術を総合して実用的な飛行機を製作したのである。彼らは行為に集中し、それまでは不可能とされていたことを実現させた。このように科学技術上の成果はヨーガ行者の超能力よりも格段に優れている。

なぜなら科学者たちは、すべての人々に恩恵を与え、世界中の人々を幸福にすることを目的としているが、超能力を求めるヨーガ行者は一個人の感覚器官の働きを満足させるためにしているにすぎないからである。もしもヨーガ行者が空中浮揚術を習得し空を飛ぶことができたとしても、その行者以外の誰かの役に立つことはない。しかしライト兄弟の獲得した成果によって、ヨーガ行者も含めてすべての人々が空中を浮遊して飛行できるようになったのである。ヨーガ行者の空中浮遊術ではヨーガ行者は家族と共に財産を携えて空中を飛行することはできないが、ライト兄弟の成果においてはそれが可能なのである。それ故に、物質的な超能力を得ようとして努力するヨーガ行者は真のヨーガ行者とは言えないニセ行者なのである。そうしたニセ行者は感覚的欲望の奴隷にすぎないのである。

これに反して発明家は真のカルマ・ヨーガ行者であると言える。発明家は理智の庇護のもとに、良心の指図に従って誠実に正法（ダルマ）を守るのである。誠実さと正法よりも優れた宗教はない。発明家は寺院や教会には行かなくとも真の宗教家だと言えるのである。発明家の仕事と行為とは宗教上の礼拝と同じなのである。

現代ではたくさんのヨーガ行者たちが色々な名前をつけて能力開発のヨーガを説いているが、ヨーガの目的を超能力の獲得と間違えてはならない。真面目なヨーガ修行者は決してこの様な誘惑の餌食にされぬように用心しなければならない。ヨーガの真の目的はバガヴァッド・ギーターの中でクリシュナ神が教えておられるように、束縛を克服し最高の境地に達することである。いかなる人もその職業が何であろうと、誤ったヨーガを行じて幻の超能力を求め、その行為と義務とを捨てるようなことをしてはならない。つまり自分の職業に専念し、カルマ・ヨーガを実修せねばならない。自分の職業こそは無私の奉仕行為を行うことであり、行為の束縛を克服することができる最高の基礎となるヨーガ行法なのである。

第五章 p 161

6 行為の放棄（のヨーガ）は、（行為に執着せぬ）カルマ・ヨーガと共にせずして行ずるのは難しい。しかしカルマ・ヨーガを行ずる聖者は遠からず絶対者ブラーフマンに到達するのだ。

見せかけ上の出家遊行者となることは、衣服を着替えるのと同様にやさしいことである。黄色の衣を着て剃髪し、身体に聖灰を塗り付けてあてもなく放浪すればよいのである。

しかし真の出家遊行とは心の働きに執着せず、どんな辛い出来事に出合っても心を平静に保つことなのであるが、そうした心境は、長い間の欲望との困難な戦いに勝ち抜かなければ簡単に得られるものではない。多くの出家遊行者が神聖な者のごとくに装った黄色の衣を着て、虎の毛皮を身に付け、木のサンダルを履き長髪にするか剃髪して歩いているが、その衣に小さなゴミが投げつけられ、無礼な言葉が行者に投げつけられるだけで、その行者はたちまち顔を真っ赤にさせて怒るかもしれない。ヨーガ行者はそうした試練を克服できなければ、見せかけだけの偽りの出家遊行者にしかすぎないのである。

むしろそうしたヨーガ行者は、誇りと偏見とを捨てられずに、さらにそれらを増やしさえしている。自分は聖者であるという傲慢さが、ヨーガ行者を神聖なる道から外にはじき出すのである。その上で苦行の生活を送り、絶えず神様について静慮することなど容易なことではない。その心は神様の許に留まることができずに、感覚器官の満足を求めてさまようのである。心は抑圧されると反乱し、かえって耐えがたい悲惨な状況を招くのである。例えば野生の象を急に訓練したとしても、その鼻の動きを止めることはできない。

しかし象に重い丸太を与え、象が丸太と戯れ鼻で丸太をもてあそんでいる限り、周囲の他のものに悪戯をすることはない。心と肉体に宿る潜在エネルギーを使ってヨーガ修行に専念するためには、絶えず何らかの行為をしていなければならないのである。それ故にカルマ・ヨーガは、より安全で確実な行法なのである。

第六章 p 184

17 節度ある食事を取り、適度に英気を養い適度に行為し、適度に眠り目覚めている者に対して、ヨーガは転生の苦悩を止滅させてくれるのだ。

ヨーガ行者は静慮に多くの時間を割かなければならないが、すべての時間を割く必要はない。まったく睡眠をとらず、完全に食事も取らなかったならば、一時的には心をコントロールすることに成功するかもしれないが、しかし、それは結局心に催眠術をかけたことと同じである。気の短いヨーガ行者の中には、目標を早く達成するために無理矢理に心の働きを止滅させようとする者もいる。このような場合には心はいかにも安定状態にあるようであるが、しばらくするとその高揚した状態から墜落するのである。コップに水を入れて非常に速く回したならばコップが逆さになっても水はこぼれないが、回すことを止めると水はこぼれる。心と肉体に催眠術をかけて高揚した状態になった者はこれと同じなのである。

つまり、すべてのことを限度内にとどめて無理してはいけないのである。栄養のある食べ物と休養と睡眠とを充分にとり、また、適当な運動と休養のために自分の時間を静慮や睡眠、食事、学習などに慎重に配分しなければならない。もしも食事や休養を充分にとらなければ衰弱して病気になる、ヨーガ修行を諦めて医者への許に駆けつけなければならなくなる。何をどれだけにするのが一番良いかは言えない。各自は自分で見つけた自分の限度を知らなければならないのである。

第六章 p 188

24 想念（サムーカルパ）から生じた一切の情欲（カーマ）を捨て、意思（マナス）によって諸感覚器官の働きすべてを制御し、

25 理智（ブッディ）によってその意思の働きをしっかりと真我の内に留めておき、ヨーガ行者は除々に寂静の境地に達せねばならない。そして、どんな思いも持たぬようにせねばならぬのだ。

「アルジュナよ。もう一度汝に静慮の行じ方を教えよう。よく準備された座の上に座り、ヨーガの座法をとったならば、すべての欲望と激情の働きを捨てなければならない。そして、神聖な誓いをたてて次のように宣言するのである。『私はすべての想念を捨てました。いかなる想念も浮かばせず、今は静慮の時であるから外から来る想念を防ぐ楯を周りに置き、同時に内側からも何の想念も浮かばぬようにさせます。私は神様に、すべての邪悪さからの影響や波動を追い払い、私の座を純粋で神聖なものとさせ、すべての望ましくないものが来ないようにして下さい、と祈ります。この場所がヨーガ行者や聖者の純粋な想念と祝福とで満たされ、私が勇氣と力とを持つことができるようにと祈ります』

こうした祈りと共に、理智の力によって意思の働きを止滅させねばならない。理智は意思よりも強いのである。困難な状況において決定を下さねばならない場合、普通、意思は問題をさらに混乱させるが、理智はすべての事実を明らかにさせ、それらが善いか悪いかを分析して正しい判断を下すのである。純粋な理智は、意思によって妨げられなければ決して過ちを犯すことはない。理智は真我の最も信頼できる武器なのである。人がウソをついた時、その真偽を見分けるのは理智である。理智は、意思が迷うことなく真我に合一するようにさせなければならない。

しかしこれは長く骨の折れる過程であるから、ゆっくりと着実に行わなければならない。ヨーガは大変厳しい忍耐力を必要とするものであるから、気の短い者には適さない。早急な結果を期待する気短な者は失望するだけである。過度の断食や苦行を行うこと、催眠術によって心をコントロールすること、薬物を使うことなどはヨーガ行者を破滅させることになる。それ故にヨーガ行者はこの様な手

段を採用しないように注意し、ここで説明してあるように、静慮のヨーガ（ディヤーナ・ヨーガ）の道をゆっくりと着実に進まなければならないのである」

第十三章 p 299

7 慢心や偽善のなさ、非暴力、寛容、正直、導師への奉仕、心身の清浄さ、固い決意、自制。

（略）『心身の清浄さ』とは、人の理想的な性格を汚すようなものがまったくないことを意味している。さらに異常なものもまったくなく、わざとらしさや、ややこしさもなく、単純さがその要となっていることを言う。このうちの肉体の清浄さとは、健康で清潔で強健な肉体を維持することを意味する。健康な心のためには健康な肉体が必要であり、さらには宗教的智慧の成長のためにも必要なのである。

さらに心の清浄さとは、うぬぼれ、偏見、偽善がないこと、誠実、非暴力、単純明快な行為を実践すること、および世俗的なものへの欲望を持たないことである。ヨーガ行者は健康を損なったり心の中で情欲を掻き立てるようなものを食べてはいけない。古くて腐ったまずい食物、殺生の結果である動物の肉や血、アルコール、タバコ、麻薬のような中毒作用のあるもの、これらはすべて肉体のみならず心までも汚すとされており、避けなければならない。ヨーガ行者は毎日入浴し、衣類を洗濯し住居を掃除して、身体や衣服や住居を清潔に保たなければならない。健康を保つためにはよく運動し、食事を節制して十分な休養を取らなくてはならない。（略）

第十三章 p 302

10 ひたむきに揺るぎなく我と一体となり続ける信愛の思い、隠棲すること、社交を好まぬこと。

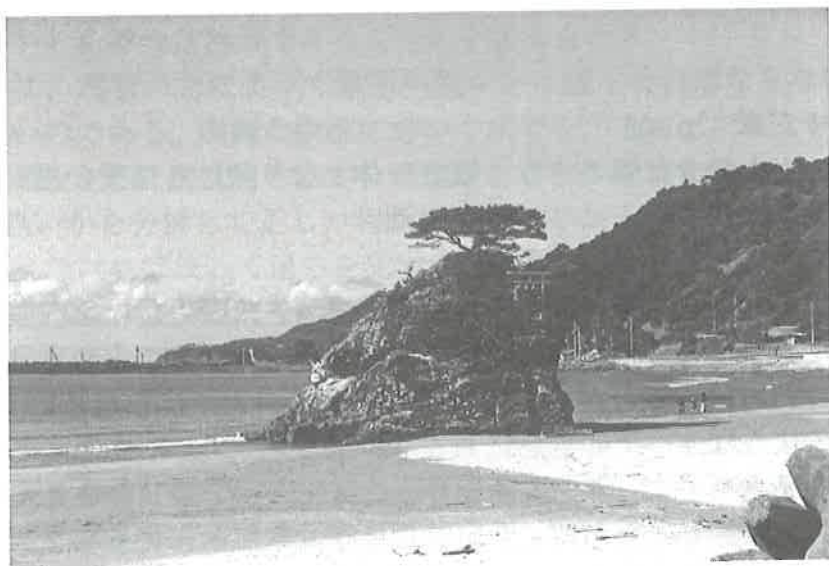
揺るぎなき信愛の思いとは欲望、淫蕩、放縦の思いを刺激するような行為や考えや言葉を慎み、熱心に神様に自分の身を捧げることを行っているのである。ヨーガ行者は、自分が多くの俗世の快樂に引きつけられていることが分かるので、そのようなすべての誘惑に負けないようにする。感覚器官と意思とに神様のことを考えさせずに、富や名声を得ることや肉欲を楽しむことや享樂的な考えにふけることを許したならば、それは揺るぎなき献身にはならないからである。

ヨーガ行者は俗人との交際を避けなければならない。それは、俗人が自分に比較して劣っているとか自分は神聖であるからということが理由ではなく、むしろヨーガ行者は俗人とは異なった生きる目的を持っており、俗人と一緒になって時

間を無駄にする余裕はないからである。もしもヨーガ行者が俗世に住みながら俗人よりも清浄になろうとして彼らを避けるならば、ヨーガ行者はうぬぼれや偽善の心を育て、神様への揺るぎなき信愛の思いを損なうことになってしまう。それ以前はヨーガ行者も俗人の一人であったのだから、俗人を見下したり侮辱したりせぬように注意しなければならない。そうではなく俗人を憐れみ、もしも自分に才能があるならば俗世の人々を助けようと努力し、それができなければ、むしろ彼らと触れ合わぬようにして生きるべきなのである。

以 上

海



2007.10 云々マナ、男性

2008.3.16

①

宮城刑務所(たより) 「手相はおもしろい」

最近、手相に熱中しています。毎朝目が覚めると、必ず自分の手相を見ている。そして、「開運線が伸びた」とか「天佑線がはっきりしてきたから、何かいいことがあるだろう」とか、一人で「喜—憂」しています。

私の師匠は西谷泰人先生です。と言っても本を買って読んでいるだけなので、「師匠」は大袈裟かもしれません。先生は5万人を鑑定し、アメリカでも活躍されていたワールドワイドな手相家です。その為、先生の本はかなり実践的なことが書かれています。

以前、カナリヤの詩に手相のことを書きましたが、あの頃から手相にずっと関心がありました。そもそも最初に手相のことに興味を覚えたのは能力開発の本に、自分の手を見ることの大切さが書かれていたからです。今では、なぜ大切かは忘れてしまいましたが、その時から手相に関心を持ちました。

「類は友と呼ぶ」と言われるように私の周りには私に似た人が集まっています。彼らも手相に興味があり、私の話に強い関心を示します。中には、私と同じ本を持ち、よく議論する同囚もいます。議論していると自分では気付かなかったことがわかったり、逆に相手に教えたりと、お互いが手相を通して成長しているのがわかっておもしろいです。

手は「脳の神経細胞の占める割合が最も多い」と解剖学的にわかっています。私が毎日行っている「指回し体操」は指を使うことで、脳の細胞を活性化させ、能力を向上させる働きがあります。

西谷先生は手相を見ればこれまでの人生がわかり、これから今のまま、

②

進めばどうなるかも知れませんが。だから、人生(運命)は仮予約だとお
われます。私は「運命は決まっているのか」「それは変えられるのか」とこれまで
ずっと考え、本を読んできました。

インドや中国にはすごい占い師がいて(日本にもいるかも知れま
せんが)、「何でそんなとまでわかるの?」と思うようなことまで、ズバリ的中
させる人がいるようです。彼らが口を揃えているのは「運命は決まっている」
です。誕生した瞬間の時間と位置(緯度、経度)は、その人個々の
ものであり誰一人として同じ人はいません。だから運命というのがあり、その
運命に人間は操られているようなことを彼らは主張します。

占い師以外にも退行催眠を行うスピリチュアルな人や、意識を研
究するモロー研究所のセニターを体験した人の本にも同様のことが
書いてありました。

一方で「運命は変えられる」と主張する占い師もいます。西谷先生も
その一人です。私が一番研究したい「易」も運命を変えられる力がありま
す。例えば、生年月日時から人の運命を占う四柱推命というのがあ
りますが、これで妊娠できないと占った女性が易の力によって妊娠したと
いうことがあるそうです。このような事実は多数あるようです。「運命は
絶対的なものではなく変えられる」とも考えられます。

この2つのことを満足させる考えも、これまでずっと考えてきました。「運命
は絶対決まっている」と同時に「運命は変えられる」という矛盾したことは、
なかなか結論が出ませんでした。しかし西谷先生が「運命は仮予約」と

③

言われたのを読み、「なるほどこれなら納得!」と思いました。生まれた瞬間に人生は仮予約となり、そのルール上をひたすら走ります。しかし、自分の運命を知り、修正したいところだけ修正する生き方(全部修正していならすごく大変ですから)をすれば、すごく楽ちんな人生になります。悪い事が振りかかったとしても「運命で決まっているのだから仕方がないや」と諦めも付きます。もちろん運命変更の方法(易や手相を書くなど)がわかっていれば、悪い事も巧みに避けることができますに違いありません。

自己啓発の本は多数世の中に出回っています。占いについても大流行中です。しかし、それらは本気になって勉強しなければ単なる自己満足や自分ができないこと、チャレンジしないことの言い訳に終わってしまうと思います。そうではなく、自分の夢を実現し、人々に貢献できるものにして欲しいと思います。

(3)

平成20年3月16日

平田悟

参考図書

西谷泰人著。「的中手相術」創文刊 ①1470

「フリーメーソン」

日本の公式サイト

<http://japan-freemasons.org/jp/modules/wfchann>
[el/、http://www.tma-japan.org/](http://www.tma-japan.org/)

6月の世界カルト問題対策会議は、アメリカのペンシバニア州、フィラデルフィアでした。大学内や公園ではリスが見られる素敵なお街。で、ご承知の方も多いと思う。いわばアメリカ発祥の街。独立宣言をして、ホワイトハウスも昔はここにあった。「自由の鐘」—要するに下手に作ったからヒビの入った鐘だね—を触ってきました。

で、更にご承知の方も多いと思う。フィラデルフィアはアメリカのフリーメーソンの元々の所。フィラデルフィアは「自由」を尊重することからだろう、実に全く、大学内も、道路にも、実にあちこちに灰皿がある。建物内はダメだけれど。で、ペンシルヴァニア大学の、各建物の外にいっぱいある灰皿は、すべてあのフリーメーソンのピラミッド型のもの、うーんうーん、と思った。一ドル札はフリーメーソンの印？ですよ。

で、伝えたいのは、「大工ミュージアム」とかいうのもあるんです。疲れて行かなかったが、いつかは行こうと。つまり、ここで言う『大工』は『石工』ではないかしら。フリーメーソン。街中にも、なんかナントカ会館があったね。

ですがね、大切なことは、これ、いわば富裕層の集まり。で、陰謀ごっこしたいが、まあ人数が増えれば、そういうわけにもいなくなってくるというもの。大体通訳を入れて「陰謀」を凝らすなんて笑話。日本のライオンズクラブとか、ロータリークラブもその派生？というか、現在は異業種交流の場所であり、まあ自民党を支える組織でもある。

陰謀ごっことしては、「東大卒が日本を牛耳っている」が正しい。経済界は慶應も強い、と。慶應大学って、島田裕巳さんの本にあるとおりすぐ三田会をつくるからね。司法界も大学がらみ見ると面白い。51歳ともなると、裁判官や検察官になっていった人はそれぞれに偉くなっていつている。オウムの被害者救済新法で国会議員らへの要請も重ねたが、不思議だなあ、すごいなあ、こんな感じで国というのは動いていくんだなあ、と思った。

ですが、もともと同郷であっても、同じ大学卒で友人であっても、研修所で一緒であっても、それぞれの立場で戦い、法をつくり、時には裁いたり裁かれたりする。実際、友人を訴追し、弁護し、裁くという事態もありますし。陰謀論のばからしさ。

フリーメーソンの特殊な握手の仕方？、知りたいなあ。おもしろそう。だが、なんかなあ、なんかもともな宗教というか、絶対的なものを信仰していないとは入れないのだということです。

寛口

<http://www.cnet-sc.ne.jp/canarium/>

発行 カナリヤの会

〒242-0021

神奈川県大和市中央 2-1-15 パークロード大和ビル 5階

大和法律事務所 窓口 滝本太郎 気付

電話 046-263-0130 ファックス 046-263-0375 takitaro@yha.att.ne.jp

横浜銀行大和支店 普通 1 3 4 3 0 7 8 カナリヤの会 滝本太郎